

女子ハンドボール競技におけるセンターバックの シュートプレーとアシストパスに関する研究

-日本リーグ選手と学生リーグ選手を対象にして-

酒井 優貴子 (201911879、ハンドボールコーチング論)

指導教員：藤本 元、會田 宏、山田 永子

キーワード：日本リーグ選手、学生リーグ選手、ピヴォット

【目的】

ハンドボール競技の攻撃においてセンターバックは、自らのシュートで直接得点をあげたり、チャンスを作つて味方に有効なアシストパスをしたりする重要な役割を担つている。しかし、センターバックのこののような役割に着目した研究はあまり行われていない。

本研究では、日本リーグと学生リーグそれぞれのトップレベルのセンターバックを対象に、試合でのシュートプレー及びアシストパスを分析し、その特徴を明らかにすること、また本研究者が選手として、今後取り組むべき課題を明らかにすることを目的とする。

【方法】

1. 対象者と対象プレー数

対象者は、2021年度の日本リーグと学生リーグそれぞれのトップ選手3名とした。

名前	相澤	谷	李	須田	斎藤	酒井
試合数	6	6	6	7	6	5
対象プレー数	58	57	58	58	57	55

2. 対象プレー

対象プレーは、対象者が打つた全てのシュート、7mスローを獲得したプレー、味方選手が有利な状況からシュートを打つことができた対象者のアシストパスとした。

3. 分析項目

ボール保持前：対象者のポジション・移動の有無・位置・防御者の位置・ピヴォットの有無

ボール保持中：歩数・フェイントの種類・ドリブルの有無・身体接触の有無・ピヴォットとのコンビネーション・最終プレー

シュートプレー：シュートパターン・スイング動作・コース・結果・種類・ポジション

アシストパス：種類・方法・パス後のシュートの種類・パス後のシュートプレーの結果

【結果と考察】

1. 日本リーグ選手と学生リーグ選手との比較

(1) ボール保持前・ボール保持の瞬間・ボール保持中の移動に関するプレーの特徴

日本リーグ選手は、学生リーグ選手よりもセンターバック

一バッックポジション（以下、「CB」と略す）でプレーを開始することが多く、また9m付近でボールを保持することが多く、防御者が6m付近にいることが少なかった。なお、ボール保持の瞬間にピヴォットがいることが多く、フェイントで突破する際、学生リーグ選手よりも様々な種類のフェイントを使用していた。

(2) シュートプレーとアシストパスの特徴

日本リーグ選手は学生リーグ選手よりもシュートポジションはCBが多く、ロングシュートが多く、またピヴォットへのパスが多かった。

2. 日本リーグ選手と本研究者のプレーの特徴

日本リーグの3選手は、CBの9m付近でピヴォットを利用してできる状態でプレーを開始し、フェイントを使って突破を行うのではなく、空いているスペースに走りこんでボールを保持し、状況に応じてシュートプレーまたはアシストパスを行なっていた。また、最終プレーについては、CBからロングシュートやブレイクスルーを狙つたりピヴォットへのアシストをしたりすることが多かった。

本研究者は、CBの9m付近で、孤立した防御者に對して均衡打破を仕掛けて攻撃を開始し、ボディフェイントをしたり、空いているスペースに走り込んでボールを保持したりと、状況に応じて歩数を使い分けながらシュートプレーまたはアシストパスを行なっていた。最終プレーについては、CBからブレイクスルーを狙いながら、様々な種類のアシストパスをすることが多かった。

【結論】

日本リーグ選手との比較から、学生リーグ選手のセンターバックには、CBでのディスタンスシュートやピヴォットとのコンビネーションによる均衡打破、多様なフェイントの実践が重要であると実践現場へ提言できる。

また、本研究者の今後の課題として、ピヴォットとのコンビネーションを利用して攻撃を組み立てていくことと、フェイントでの突破だけでなく、防御者から離れた位置でボールをキャッチし空いたスペースを利用してしながら突破していくことが挙げられる。